

# ヒラツカレッド

登録番号：第362号

育成者：金戸橋大 吉田雅夫 栗原

登録年月日：昭和58年2月24日

昭夫 千葉 勉 西田光夫

登録者：農林水産省果樹試験場（茨

京谷英寿 山口正己

城県つくば市藤本2-1）

来歴：「興津」と「NJN-17」の交雑  
実生 生食用ネクタリン

## 特 性

### ■栽培特性

樹勢はやや強く、樹姿はやや開張性である。葉芽や花芽の着生も良好で、ネクタリンとしては複芽が多いので、整枝剪定は容易である。

発芽期、開花期は甲府盆地で4月上旬、「白鳳」より2日～3日早く開花する。花粉は親の「興津」と同じくらい多く、自家結実性でもあるので、人工受粉の必要はない。

生理落果も少ないので豊産性である。したがって、果実の肥大を助けるために、摘蕾・摘果を早く実施するのが最良である。

本品種の最大の問題点は有袋栽培を行わなければならないことで、しかも、他の品種より早く袋掛けをしなければ、果実の表面にらせん状にひび割れが生じることがある。

なお、収穫時期を誤まると果頂部が柔らかくなって裂果するので、適熟期に収穫することを心がけることが特に必要である。

### ■果実特性

果実は円～短楕円形で、玉揃いは良い。果実の大きさは170g～190gで、この時期のネクタリンとしては大きく、着色が秀れているので外観は非常に良い。

果肉は黄色で肉質はやや密、柔軟多汁、糖度は13度くらいあり、甘味はやや多く、適度の酸味もあり、甘酸適和である。ネクタリン特有の香りを持ち、日持ちは毛桃なみである。

核は半離核で核割れは少ない。

### ■病虫害抵抗性

灰星病に対する抵抗性が弱いのと、開花が早いので葉腐れに注意し、他の品種より第1回の防除を2日～3日くらい早めに実施する。

なお、アブラムシ類は特に注意し、薬害の発生するおそれのない殺虫剤を、適期に散布するのが望ましい。

その他の病害虫については、他品種と同じと考えてよい。

### ■地域適応性

土壌その他に対する適応性は広い方で、扇状地のような砂礫土で栽培すると糖度が高くなる。排水がよく乾燥する土地では病害虫も少ないので、このような立地条件を選んで栽培するとよい。

(中込謙二)